

所報

第54号 2006年3月発行
発行者 沖縄県立総合教育センター
所長 与儀真幸
〒904-2174 沖縄県沖縄市字与儀587番地
電話 098-933-7555 FAX. 098-933-3233
URL <http://www.edu-c.open.ed.jp/>

県立総合教育センター研究発表会

「学ぶ意欲を高める指導方法の改善・
充実をねらう学校教育の創造」

沖縄県立総合教育センターでは、学校教育の充実と各学校の課題解決に資する目的で、調査研究を進めて来ました。テーマ「学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実をねらう学校教育の創造」のもと、研究の成果を2月14日に、第1部全体会（プロジェクト研究、課内共同研究6本）、第2部個人研究・協力員共同研究（33本）発表会を持ちました。多数の参加の下、有意義な発表会となりましたことを、心から感謝申し上げます。

プロジェクト研究、個人・協力員共同研究の概要を紹介します。なお、研究成果は、Web上で公開しております。

<プロジェクト研究>

- ・【家庭・地域との連携】
- ・【校種間連携】
- ・【学科間・教科間・職員間連携】

<課内共同研究>

- ・教科研修課
- ・教育経営研修課
- ・理科研修課
- ・特殊教育課
- ・産業教育課
- ・IT教育課

<個人・協力員共同研究> 33本

* <http://www.open.ed.jp/>
で公開しています。



***** もくじ *****

県立総合教育センター研究発表会「学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実をねらう学校教育の創造」	- 1 -
プロジェクト研究、個人研究・協力員共同研究概要紹介	- 2 -
校務支援システム開発プロジェクト	- 3 -
小学校英語活動研修を振り返って - Pathfinders(先駆者)として -	- 4 -
県内外国人学校TA実地研修 - 米国人中・高校生を教えて -	
危機管理の意識を！ - 危機管理マニュアル発刊を通じて - , 後期長研(特別講演)「心の平和・体の平和」	- 5 -
都道府県指定都市教育センター所長協議会 第39回初等理科部会(沖縄大会)報告 ,	
研修成果を全国でアピール - Eスクエア・エポリューション成果発表会 -	
障害児の教育相談の現状	- 6 -
変わる県立教職5・10年経験者研修 ~ ライフ・ステージに応じた研修へ ~ , 教育相談研究室紹介	- 7 -
産業技術・新システム導入 , 環境整備の変遷を綴る	- 8 -

<プロジェクト研究，個人研究・協力員共同研究概要紹介>

総合教育センターでは、プロジェクト研究委員会を組織し、共同で研究を進めています。昨年度のプロジェクト研究「平成 16 年度 児童生徒の学習に関する基本調査」から本県児童生徒の抱える学習上の課題解決に向けた 19 の提言が示されました。今年度は、それを受けて「学校教育における連携」に着目しました。「家庭・地域との連携」、「校種間の連携」、「職員間・教科間・学科間の連携」という3つの視点から迫りました。

以下に、プロジェクト研究の一部、個人研究・協力員共同研究の概要を紹介します。

- 盲・聾・養護学校の学部間連携における

個別の指導計画の活用状況調査を通して -

校内・校外の様々な連携の場において、子どもの実態、指導計画及び評価をまとめた「個別の指導計画」を今後益々有効に活用していく方策についてまとめました。（特殊教育課）

- 中学校・高等学校における「家庭学習記録簿」の活用を通して -

これまで、県教育委員会を中心に家庭・地域社会と連携しながら学力向上対策に取り組んできました。家庭学習の習慣化と定着を図る1つの手段として「家庭学習記録簿」の活用が考えられます。

「手軽に使える、長続きさせる。」「保護者との関わりを図る。」「多くの生徒が何らかの形で記入できる項目を入れる。」の3点に留意した家庭学習記録簿の様式を提示しました。

（教育経営研修課）

- 小・中・高校の理科指導の連携を通して -

児童生徒の学習意欲の低下は、校種の変わり目（節目）で目立ちます。それを防ぐ手だてとして、学習内容の継続を校種間連携で取り組めないかと考えました。

本総合教育センターがWeb上で学習教材を提供していますが、小・中・高校の教諭が教材の指導法を共同で検討していくことも手だての一つになるのではないのでしょうか。（理科研修課）



個人研究・協力員共同研究成果の展示

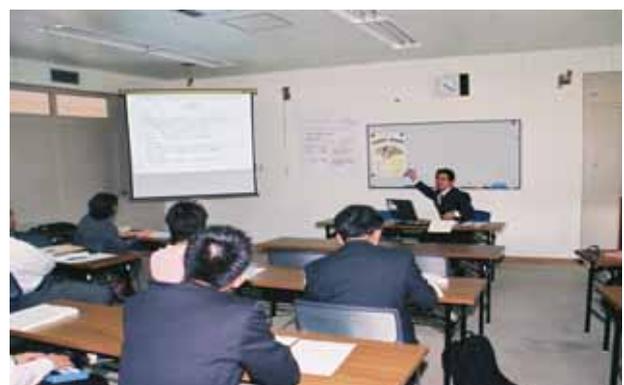
個人研究・協力員共同研究（第2部）

第1部の全体会終了後、本館（3階，4階）の研修室で各課ごとにコンピュータ等を使ったプレゼンテーションやポスターセッション等で発表を行いました。

参加した各学校の先生方からも「必要な情報が得られた」「疑問に感じていたことへの方向性が見えた」などの感想があり、日頃の授業実践の資料や学校で抱えている課題の解決の参考になったことと思います。



個人研究・協力員共同研究の発表の様子



個人研究の発表

校務支援システム開発プロジェクト

IT 教育課

IT 教育課では、学校の情報化を推進するために校務を支援するシステムの開発を行いました。本年度作成されたシステムを紹介します。

1. 中学校生徒情報管理システム

本システムでは、生徒情報を共有し、成績処理や通知表作成等を行うことができます。



図1 メイン画面

<主な機能>

- 1 学期ごとの通知票作成や成績処理
- 2 家庭環境調査票の作成や生徒の出席簿管理
- 3 高校入試関係帳票

2. 中学校用高校入試事務処理システム

高校入試事務を軽減するため中学校のデータを高等学校のデータベースへ引き渡すシステムです。

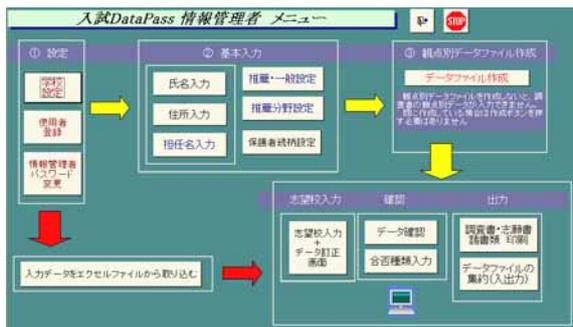


図2 メイン画面

<主な機能>

- 1 志望校ごとの調査書、志願者名簿の印刷
- 2 既存データの取り込み(Excel データ)
- 3 高校側へのデジタルデータの提供

3. 高等学校生徒動態管理システム(SEA)

<主な機能>

- 1 電話連絡による生徒の欠席伝達
- 2 保健室利用状況や授業中の出欠情報の伝達

4. 出欠情報をもとにした生徒検索システム

高等学校で、検索機能を用いて生徒の出欠状況を細かく把握することのできるシステムです。

欠席数、欠課数、遅刻数検索 -> 検索条件入力 -> 検索結果表示

【検索結果表示ボタンの説明】
「生徒名」をクリックすると教科別の出欠状況が表示されます

学年	組	生徒番号	氏名	病欠	届出欠	無届欠	全欠席	届出欠課	無届欠課	全欠課	SHR	遅刻
1	01	025	生徒001518	0	0	0	0	3	3	6	0	0
1	02	008	生徒001520	3	0	0	3	15	15	30	1	1
1	02	047	生徒001521	1	0	3	4	11	8	19	1	1
1	02	030	生徒001517	1	0	0	1	7	3	10	0	0
1	02	035	生徒001556	1	0	0	1	3	3	6	0	0
1	03	007	生徒001628	4	0	0	4	9	3	12	4	4
1	04	004	生徒001467	2	0	1	3	7	2	9	1	1
1	04	038	生徒001555	1	0	0	1	6	6	12	0	0
1	06	006	生徒001473	1	0	0	1	6	0	6	0	0
1	08	005	生徒001676	7	0	0	7	6	1	7	0	0

【上の検索結果をExcelで表示(csv形式)】
【検索結果を各自のパソコンに保存するときはExcelからファイル名を付けて保存して下さい】

図3 検索結果表示画面

<主な機能>

- 1 欠席、欠課、遅刻数の把握
- 2 クラス別・学年別教科出欠状況の把握
- 3 保健室使用状況の把握

5. 健康観察簿システム(特殊教育)

校内LAN上で、児童生徒の健康情報を管理するシステムです。

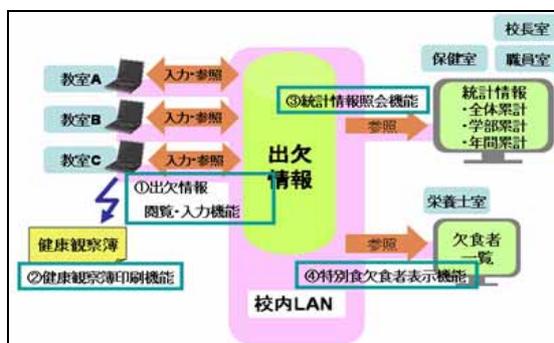


図4 健康観察簿システムの基本機能

<主な機能>

- 1 出欠情報入力及び閲覧や健康観察簿印刷
- 2 出欠集計や欠食者閲覧

「欲しい情報がすぐにご覧になれます!!」

本総合教育センターでは、教育情報共有システムで長期研修員研修報告書、本総合教育センター刊行論文がご覧になれます。下記アドレスにアクセスしてどうぞ活用下さい。

<http://www.open.ed.jp/>

小学校英語活動研修を振り返って

Pathfinders(先駆者)として

教科研修課

平成8年度から、本総合教育センターでは長期研修として小学校英語研修員の受け入れが、毎年後期1人のみ開始されました。その8年後、平成16年度には教育現場のニーズや本県教育施策等の重点化で、前期2人・後期2人へ増員されました。

平成17年度からは、英語活動指導力と英語運用能力を高める実技研修を重視し、かつITスキルと部分イマージョン教育の内容が包含された研修プログラムへ改善。これは、平成14年度より実施した「IT語学活動1か月研修講座」の発展型でもあります。

現在、後期6人の研修員が切磋琢磨しながら、原則的にAll Englishで、4つの研修目標に向かって毎日の研修へ励んでおります。後期研修員は、本研修プログラムを振り返り、以下の所感を述べています。

- (1) プログラムは、理論的なことから実践的なものまで多彩な内容であった。
- (2) 各研修員の模擬授業等で英語パーシャル・イマージョン教育の有効性が感じられた。
- (3) 本研修を通して多くの講師や先生方にお会いすることができ研修内容が充実していた。
- (4) 本研修で得られた知識や情報等を同僚の先生方と共有し、国際理解教育の研究に努めたい。
- (5) 今後は、児童が英語に親しみ、国際的なコミュニケーションの手段として活用できるための授業実践を目指したい。
- (6) 今後の英語活動の在り方や展望、さらには新しい課題を持つことができた。外部講師から多くの示唆を受けた。



講師：琉球大学大城賢教授と研修員

県内外国人学校T A 実地研修 米国人中・高校生を教える

教科研修課

平成17年4月に発足した「英語イマージョン教育研修」はほぼ予定通りに研修を終えようとしています。その間、英語(専門)演習、理論研修、ITコンテンツ作成、英訳作業、模擬授業など、多彩な研修内容をこなしてきましたが、特に10月4日~12月16日までの2か月半の「県内外国人学校T A(ティーチングアシスタント)実地研修」を通して9名の研修員は実に多くのことを学んだと報告しています。

配置校のカテナミドル、レスターミドル、カテナハイスクール、クバサキハイスクール4校での実習の中で共通した感想・反省は、

- (1) 外国人学校では、生徒が教師の教室に移動するので、教師は授業の準備がやりやすい。
- (2) 外国人学校の授業のスタイルは、討論、発表、実験など、全ての授業で体験的学習型授業が多い。
- (3) ITを活用しての授業が多い。
- (4) 教師のプロ意識の高さに加え、生徒の学習態度・意欲の高さを感じられる。
- (5) 学校と保護者の連携はインターネットを駆使しての連絡体制と保護者との話し合いを通じて効果的に行われている。
- (6) 生徒からの質問に答えるための英語力の不十分さを実感した。

今後は、本研修で培った資質や能力が学校現場で大いに活かされるとともに、他の先生方へ影響を及ぼしていただくこと等を期待します。



レスターミドルスクール理科の授業

危機管理の意識を!

- 危機管理マニュアル発刊を通じて -

安全・衛生委員会

危機管理能力向上が学校現場に求められています。「あなたの目の前で事件や事故が起きたことを想像してみてください」 受講者の先生方の答は「養護教諭に知らせる、管理者に知らせる」が圧倒的に多い回答です。...果たしてそれでいいのでしょうか？ 平成

13年に大阪教育大学附属池田小学校で起きた痛ましい事件では、8人もの児童の尊い命が奪われてしまいました。



H17.11月 初版発行

不審者に対しあまりにも

無防備で、また緊急時の先生方の対応ができていなかったことに、非難の声が集中しました。あれから4年経過し何が変わったでしょうか...? 相変わらず児童生徒をねらった凶悪犯罪はなくなりません。また危機管理といえば「不審者対策」とばかり思っているのかもしれませんが、学校の危機管理には多くのことがあります。何が起きるか予想がしにくい時代です。だからこそ、教職員として人の命を預かっているのだという意識の再確認と即行動できる体制の構築が大切です。

後期長研(特別講演)

『心の平和・体の平和』

本総合教育センター産業医:天願勇氏(総合医療センター クリニックぎのわん院長)による特別講演「心の平和・体の平和」が、「青少年の教育に携わる教育関係者が、豊富な経験及び実践に基づいた講話を拝聴し、今後の教育方策等に資する。」を目的に開催(H18.1.17)されました。

講演の概要は、自身が医学や総合医療を志した理由を皮切りに「健康・長寿の沖縄」「人生の質と量」「生活習慣病」「心・脳の機能」「ボケ防止のこつ」「運動と休養」「ストレスのかわし方」等の豊富な内容で示唆に富む講演でした。

途中、健康運動指導士による簡単な体操の実技指導もあり、和やかで有意義な時間を過ごしました。



都道府県指定都市教育センター所長協議会 第39回 初等理科部会(沖縄大会)報告

理科研修課

昨年10月13日・14日、那覇市安里「ホテル・オーシャン」にて所長協(旧全理セ)初等理科部会が行われ、全国から21機関22名、県内の各教育事務所やスタッフ等約50名の参加がありました。初日は仲宗根用英教育長(代理:宮里朝光参事)の来賓祝辞を受けた開会行事に始まり、研究発表、講演が行われました。「ウチナーンチュ(沖縄人)はどこからきたか」の題で、元センター副所長の大城逸朗先生の学術的かつユーモアあふれる講演が大変好評でした。2日目は研究発表、研究協議に続き、指導助言として文部科学省調査官(兼国立教育政策研究所教育課程調査官)の日置光久氏による、次期学習指導要領に関する有意義な情報なども得られ、無事に大会を終了することができました。「センター友の会」にも物心両面でのご協力をいただき、本紙面での報告をもって謝意に代えさせていただきます。

研修成果を全国でアピール

- Eスクエア・エボリューション成果発表会 -

IT教育課

3月3日・4日に東京で行われたEスクエア・エボリューション成果発表会において、本課長期研修員が、校務支援プロジェクトと教材開発プロジェクトの2件について成果を報告しました。

校務支援プロジェクトへの関心は特に高く、立ち見ができるほど盛況でした。また、展示ブースにも多くの見学者が訪れ、中学校、高校、特殊教育諸学校における校務支援ソフト



発表ブースの様子

ウェアや学校用グループウェアを実際に動かしながら紹介し、見学者からの質問も活発になされました。他県からは、本センターの開発力をうらやましがめる声も多く聞こえる程好評でした。なお、同発表会は、財団法人コンピュータ教育開発センターが主催(後援文科省他)し、学校現場において効果的かつ継続的に利用できるITの教育的利用に関する実践事例、研究成果等を紹介する場で、全国から約2,000名の参加がありました。

障害児の教育相談の現状 (特殊教育課)

特殊教育課の業務に、障害のある幼児児童生徒の保護者等を対象とした教育相談活動があります。ここでは、「障害児来所教育相談事業」(以下、「来所教育相談」という。)を取り上げ、特殊教育から特別支援教育の変革期を迎えて、来所教育相談がどのような状況にあるかを紹介します。

来所教育相談は、相談者が予約後に来所して相談する「来所相談」と電話で相談する「電話相談」があります。乳幼児から高校生まで保護者や学校・保育所の担任及びその関係者を対象に、養育・教育・医療等の相談に、特殊教育課職員または嘱託医が対応しています。

この来所教育相談の相談件数について、平成13年度から本年度までの5カ年間の相談件数の推移を図1に示してあります。平成13年度以降、相談件数は増加の一途を遂げており、本課の教育相談の充実が図られていることが伺えます。

また、障害別の相談内訳から軽度発達障害(LD, ADHD, 高機能自閉症等)について平成13年度から5カ年間の推移をみると、図2のように相談件数が年々増加していることが伺えます。これまでの特殊教育の対象(知的障害等)に新たに軽度発達障害を加えて、特別支援教育の体制整備を進めている中で、時代のニーズに応じた教育相談活動が展開されていることがわかります。

今後とも、保護者や関係者等のニーズに応じた相談活動が展開していけるよう、特殊教育課は、相談活動の充実と発展に邁進しているところです。

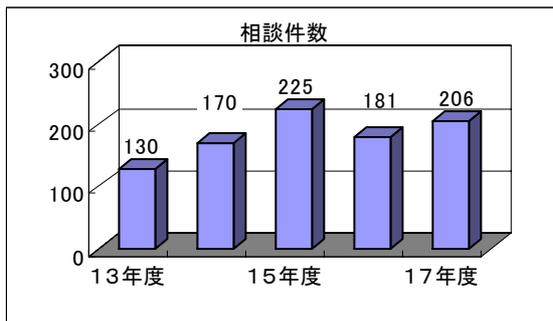


図1 相談件数

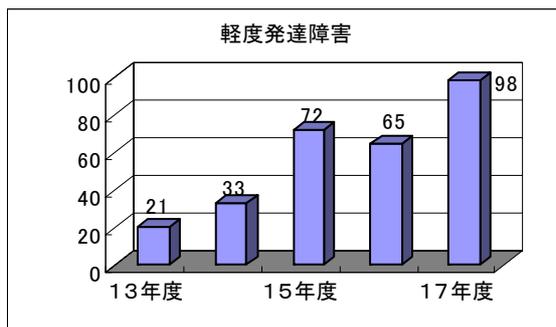


図2 軽度発達障害の相談件数

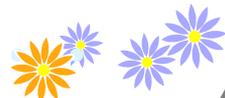
特別支援教育講演会第2弾!



教育現場のニーズと特別支援教育の理解と啓発を目的に、昨年度に続き、特別支援教育講演会第2弾として、山口県立大学看護学部の林 隆 教授をお迎えして、平成18年2月20日に教育講演会が本総合教育センターで開催されました。

「LD・ADHD・高機能自閉症等への実際的支援について」をテーマに、2時間45分におよぶ講演会でしたが、434名の聴衆が集まり、会場となった多目的棟は熱気に溢れた状況でした。

「特別支援教育は、全ての子ども達に成功体験と失敗体験の両方を保障する教育である。」一人一人の良さを見つけ、ほめて伸ばしていくことを支援の柱にすることの大切さを感じた講演会でした。



変わる県立教職5・10年経験者研修 ～ ライフ・ステージに応じた研修へ ～

総合教育センターでは、教職経験者研修として、初任研・5年研・10年研・15年研を実施しています。中でも初任研と10年経験者研修は、法律により定められた教職員研修として実施しています。

10年経験者研修制度は、平成14年「教育公務員特例法の一部を改正する法律」の公布を受け、平成15年4月1日より施行されています。総合教育センターでも校外における研修として17日間を夏季休業期間を中心に実施してきました。本格実施3年を終え、新たなライフ・ステージに応じた研修の実施に向け取り組んでいます。

平成18年度に実施を予定している5・10年経験者研修について紹介いたします。

【10年経験者研修】

開講式を5月に開催

10年研修の趣旨と意義を理解していただくと共に、研修が円滑に効果的に実施できるよう周知徹底を図る意味から、7月下旬に実施していた開講式を5月18日(木)に実施します。

選択研修期間の拡大

選択研修期間を6月から10月までの休暇期間中の3日間程度とし、個々の能力適性に応じた研修や大学等での講座受講が認められます。

授業研究会の開催

教科に関する授業研究会を代表者による研究授業発表会後に実施する予定です。

【5年経験者研修】

教科指導の充実

指導力向上に向けた研修の充実に努め、5日間の社会体験研修の内容を見直し、研修の効率化を図る意味から、研修内容の一部を10年経験者と合同で実施する予定です。

宮古・八重山での講座開催

総合教育センターのみで実施していた基本研修2日間を宮古・八重山地区でも開催します。

今後もライフ・ステージに応じた研修の在り方について研究・検証を継続し、より実践的な指導力向上へ繋がる研修の実施を予定しています。

教育相談研究室紹介

教育経営研修課教育相談研究室では研修事業、調査研究事業以外に教育相談事業、適応指導教室事業を行っています。この2つの事業について、簡単に紹介をします。

(1) 教育相談事業

児童生徒の教育上の諸問題について適切な支援を行うために電話相談、来所相談、訪問相談を行っています。下記の表は、平成17年度の12月までの相談受理件数を集約したものです。電話相談は母親からの相談が圧倒的に多く、不登校に関する内容がほとんどです。適応指導教室「てるしの」入級希望者については、面談を重ねた後、判定会議を経て入級が認められます。

(2) 適応指導教室事業

適応指導教室「てるしの」の運営以外に、県内適応指導教室のスポーツ交流会や体験活動交流会を実施しています。その中から活動の一端を紹介します。

スポーツ交流会は、県立総合運動公園レクリエーションフィールドにおいて行い約60人の児童生徒が参加し、グラウンドゴルフ、キックボールをおし交流を深めました。ほとんどの児童生徒から「楽しかった」という感想が寄せられました。

体験活動交流会は1月26日、県立総合教育センターで実施しました。午前は「缶バッチ作り」などの7つのメニューから選択し、午後は「おもしろ科学実験コーナー」で15種類の実験を体験しました。県内適応指導教室から約100名の参加があり、楽しい体験活動を通して、他の適応指導教室の生徒と交流を深めました。

H17年度教育相談件数

相談	電話	来所	訪問	計
小学生	63	9	0	72
中学生	49	23	6	78
高校生	61	21	2	84
計	173	53	8	234



県内適応指導教室スポーツ交流会

産業技術・新システム導入

産業教育課では、産業教育に係る教職員研修や生徒実習を実施し、今年度は農工商の専門高校の生徒 3,084 名(H18.3.1 現在)が、実習を行いました。今後の研修・実習の充実を図るため、第二次整備計画の一環として平成 17 年度にシステムが導入されました。以下に新システムの紹介をします。

マルチメディア技術教育システム

本格的な「音楽と映像」の総合実習を可能とするシステムです。音楽と映像による表現活動をとおして、マルチメディアによる伝達効果とその特質について理解させ、作品を構成・企画する実践的な能力の育成を目指しています。実習は主に次の内容です。

- コンピュータミュージック制作技術
- デジタルレコーディング技術
- 静止画・動画加工編集技術
- マルチメディアコンテンツ製作技術
- Webでのマルチメディア配信技術

ネットワーク制御技術教育システム

本システムは、コンピュータ制御による機械の操作及び Web カメラをとおして実際の動作監視技術を学習させ、高度通信情報ネットワーク社会における遠隔地制御技術の基礎をはじめ、各種計測制御技術及び二足歩行ロボット制御の基礎的技術の習得を目指しています。このシステムにより以下の実習が可能になります。

- 遠隔地からのMPS(モジュラープロダクションシステム)の制御技術
- 組込 Linux による計測制御技術
- H8 マイコンによる計測制御技術
- PIC マイコンによる制御技術
- 二足歩行ロボット制御技術

Webプログラム学習システム

このシステムは、ネットワーク上におけるWebサイト等の企画、構築及び運営に必要なプログラムの基礎技術の実習・体験により、動作の仕組みの理解を目指しています。主な内容は次のものです。

- ICカードによる入退室管理・PCログオン認証等の仕組みとセキュリティの必要性
- Java プログラミング実習
- PHP及びデータベースの実習 等

環境整備の変遷を綴る

県立総合教育センターは、現在地に移転して 18 年になり、所内は緑豊かで花が咲き誇り、研修や研究の場にふさわしい環境がつくられています。

移転当初は、各課棟が次々と竣工され、施設設備の充実が図られました。しかし、泥湿地を埋め立てた敷地では、湿害や潮害で植物の栽培は極めて困難な状況にあり、そのため、教材植物の確保に苦慮しておりました。

平成 3 年度に「花と緑と野鳥の住む環境づくり」を合い言葉に、所長以下全所員、研修員の協力や、また、地域や企業等の協力を得て、客土により造成や樹木の植栽を施し、環境整備の基盤がつくられました。その後、歴代所長、所員、研修員が一体となって、所内の教材園や樹木の維持管理が組織的、継続的に取り組まれ、全国にも誇れる素晴らしい研修環境が整備されてきました。これも、ひとえに環境整備に取り組んだ、多くの関係者の想いと汗の結晶によるものです。

この度、関係者の教育センターへの想いと苦労の足跡を記録に残し、さらに、岩石園や教材池をはじめとする教材園など教育センターの施設、設備を広く各学校へ紹介し、学校教育における環境教育及び環境整備活動への取り組みの一助になるよう、「相思樹の木陰から」と題し、県立総合教育センターの環境整備活動のあゆみを編集しました。



冊子「相思樹の木陰から」表紙

その主な内容として、教材園と種類、その活用、所内の紹介、年度別による環境整備の変遷、ご尽力いただいた方々の回想、環境整備の基盤を創られた方々の座談会の集録などを綴りました。

本冊子が、総合教育センターへの理解を深め、学校、先生方、関係者の利用、活用に生かされれば幸いに思います。



環境整備活動の様子
(土づくり)

客土して植樹(現在 教材池)